



NO.448

R6年12月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

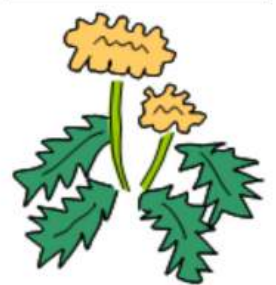
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



分かれと別れ

施設長 木下昭二

先日まで「暑い、暑い…」と言っていた九州でも、「急に寒くなりましたね…」という朝の挨拶を頻繁に耳にするようになりました。ここ数年は、同じような気候が続いており、本当に「秋が短く」なって、日本が「夏と冬」に極限化していつているように思います。そんな24年も残すところあと少しとなりました。そのような年の瀬には相応しくないかもしれませんが、今年「ご家族とのお別れ（訃報）の知らせ」が6軒のご家族からありました。今、思う事は、ここ3〜4年の間、新型コロナウイルスへの対応策としての行動制限であったとは言え「帰宅の制限」をせざるを得なかった（利用者さんとご家族とを会わせてあげられなかった）期間を設けてい

たことを「悔いる想い」が脳裏を駆け巡りました。利用者さんご家族をも守る為に「仕方がない措置だった」と言えばそれまでですが、帰省後の次の帰宅までの一時の「分かれ」とは違い、それが今生の「別れ」となると、また捉える意味が違うように思います。今更ではありませんが、ご逝去なされたご家族様にその事をお詫びすると共に、心よりご冥福をお祈り致します。そんな一年を思いを巡らせる中で、先日、利用者さんのご自宅を家庭訪問して、帰省時の家庭の様子や、幼少期の頃の苦労話しや楽しかった思い出をはじめ、エピソードを含めた、お母様やご姉妹の利用者さんに対する思いなどをスタッフに伝えてもらうケース検討会がありました。その際、私自身一瞬にして三気の里に入職して間もない

30数年前の記憶が鮮明に蘇って来ました。あの頃は、保護者・ご家族がお若くていらっしやっただこともあり、多くの方々が毎週末に帰宅されており、そのご家族の想いに応えるために、スタッフも毎週末に担当の4冊分の連絡帳を必死に記入し、それだけではなく、その時その時の利用者さんの施設での様子や新たな気付きを話したり、家庭でのご家族のお悩みを聞き取る等して、まだスタッフとしての経験が浅く未熟ながらも一緒に向き合って、解決策を考えた日々を積み重ねていました。その中で、必要に応じて利用者さんの家庭訪問を行わせて頂き、利用者さんの過ごすお部屋を見せて頂いて、よりご家族のお話しを実感したり、共有したりしていました。

時代は巡り巡って、昭和、平成を経て、今は令和…、三気の里も開設して38年目を迎え、利用者さんも、当然ご家族も同じだけ歳月を重ねて来ました。「生物に起こる100%の出来事は、必ず死を迎えることである」と言われるように、それは保護者・ご家族にも、当然私にも訪れます。若いスタッフの人達は、保護者・ご家族の皆さんと顔を合わせる機会が減り、利用者さんの家庭での様子を直接伺う機会が圧倒的に減っています。コロナ禍前に戻りつつある今、もっと言えば保護者・ご家族の皆さんが、元気にされている今のうちにその機会を設けて、利用者さんの育ちのルーツを聞き取って、ご家族の利用者さんへの想いのバトンを受け取り、「我が子への想い」をしっかりと未来へと繋いで頂けたら…と思っています。「ご家族の皆様も「今更、家庭訪問!？」（笑）と言わず、スタッフから依頼があった際には快く引き受けて頂き、記憶を辿って一緒に「幼少期の我が子話し」をお聞かせ下さい。どうぞ宜しくお願い致します。



開園祭



『開園記念祭』

11月9日に三気の里37周年開園記念祭を開催致しました。今年はコロナウイルス前と同様の開園記念祭への第一歩として、「地域の方の招待」と「ステージの復活」を課題として取り組みました。

森、陣内地区の代表である、役員さんにお声掛けをし、来ていただきました。ステージでは歌のコンサートやマジックショーなど大変盛り上がりしました。模擬店も前年同様に「あじまん」「ぶんごや」「岡本商店」様に加えて、カードマジックや陣内食堂でお世話になっている更生保護女性会の方々にも出店して頂き、祭を盛り上げていただきました。ジュースの協賛もたくさんいただき、家族会の皆様には抽選会の為に寄付をいただきました。

今回、8名の実行委員メンバー一人ひとりに役割を依頼しました。各自で考え、2週に一度の会議で意見を持ち寄り話し合うことを繰り返し、当日に向けて準備を進めてきました。開園祭を盛り上げたいという全員の想いが当日の晴天、そして笑顔あふれるお祭りに繋がったのだと思います。

毎年楽しみにしていただいている地域の皆様、今年度も御呼びすることができず申し訳ありませんでした。来年こそは、地域の皆様と共に、笑顔で開園記念祭を催せることを心から願っています。

関係者の皆様、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

主任 友尻 陽也



「開園記念祭 会場」

11月9日に第37回開園記念祭が催されました。今年度は昨年度よりもさらに拡大させ、ステージに音楽療法士さんや、手品師の方をお招きし、模擬店でも更生保護女性会の方々に豚汁を出していただくなど、外部からの参加者を拡大して執り行いました。前日準備の時までステージの場所、模擬店の位置など、どのように配置すると利用者さんが楽しんで回れるかを検討しました。検討を重ねた事もあり、当日は模擬店に長蛇の列ができることなく、またステージも多くの利用者さんに楽しんでいただく事ができ、大盛況のうちに幕を閉じる事ができました。これもひとえに地域の方々のご協力があったからこそだと思えます。来年度はさらに大盛況となるように、周囲の状況に合わせて拡大できたらと思えます。

生活支援員 清田 健士郎

『ステージ』

今年の開園祭はステージイベントをすることが出来ました。

地域の方に声をかけさせて頂き、ステージで2組の方々が素敵なショーを披露して下さいました。華やかな衣装を纏われ美空ひばりに扮したものまねや、観客も一緒に参加する素敵な音楽を奏でて下さった音楽療法士の方々が、手慣れた手つきで小道具を操られて、魔法のような手品で観客を魅了して頂いた方。準備していた客席の数を急遽増やさなければならぬ程の盛り上がりでした。

会場が温まった後の出番はスタッフによるバルーンアートです。ステージをしている途中、突然ステージ脇から大量のしゃぼん玉が噴射されて歓声が上がりました。その演出は手品を終えられた方が私たちのステージを観て下さり、そっとなしゃぼん玉の機械を置いて下さっていたのです。思いがけない演出に感謝しています。

今回私は初めて開園祭の係をしました。地域の方々のご協力のお陰で開催できた開園祭、ステージだったと思います。私たち三気の里も地域の一員として、助け合っている存在でありたいと思いました。

副主任 相馬 敦



『抽選会』

式典後、皆さんお楽しみの抽選会があり、今年は、足長で高身長のからいも君が来てくれました。式典時は皆さん静かに参加され、抽選会が始まると目を輝かせ、皆さん自分の名前が呼ばれることを待ち望んでおられました。景品は一等：ニトリNウォーム毛布と敷パット、二等：イオンギフト券3000円分、三等：グルメギフト1000円分、四等：タオル2枚セットでした。今年度もくじを引いてくれた方は木下施設長です。抽選箱に手を入れる施設長を、皆さん真剣なまなざしで見られていました。「じゃーん」とくじを箱から出されると、名前の書かれた紙に、皆さんの目線が集まります！「〇班の〇〇さん」と名前を呼ばれると、「えっ」という表情の利用者さんに、周りには「おー！〇〇さん良かったですね」と声を掛けて、みんなが笑顔いっぱい、すごく幸せな気分になりました。家族会からも、皆さんにプレゼントを頂きました。ありがとうございました★

生活支援員 玉永 咲希



『模擬店』

今年もたくさんの模擬店を出店していただくことが出来ました。あじまん様からは三気では初メニューの魯肉飯、ぶんごや様からは定番人気の唐揚げ、岡本商店様からは皆さん大好き益城プリン、レオック様からは焼きたてのフランクフルト、大津町更生保護女性会様からは温かくて美味しい豚汁、三気の里自治会からは輪投げゲームを出店していただきました。いつも快くご参加いただきまして、本当にありがとうございます。

さて、晴天にも恵まれ、例年にも増して活気が溢れる模擬店会場！キッチンカーや大きなのぼり旗のある雰囲気、たくさんの方で賑わう会場の声を聞いていると、とてもワクワクした気持ちになりますよね。昨年から少しずつではありますが、保護者の方や地域の方をこうしてお呼びすることが出来るようになってきたこと、とても嬉しく感じています。三気の里からたくさんの方々に、日頃の感謝を含めた記念祭になったのではないかと思った1日でした。

生活支援員 伊藤 愛理



「自治会」

爽やかな秋晴れに恵まれた当日、自治会としての役割は「ゲームコーナー」。事前に自治会のメンバーである利用者さん達とスタッフで話し合いを行い、今回は「輪投げ」に決めました。飾り付けも利用者さん達が折り紙で作り、可愛いきらびやかな一角となりました。

いざ本番を迎え、輪が入る入らないに関わらず歓声とどよめき、拍手の飛び交う素敵な空間になり、自治会として少しホッとしました。こういった機会でないといけない利用者さん達の表情もあり、私達スタッフとしても癒される時間となりました。

当日、自治会スタッフとしての私の役割は大津町のキャラクター「からいも君」に扮すること。皆さん物珍しさに近寄ってこれ、写真を撮ったり握手を求められたりと人気者になった気分を味わわせていただきました。爽やかな外の空気とは裏腹にサウナ状態だった着ぐるみの中の私の体重は終了後2kg減りました（笑）。

生活支援員 田淵 晃一



『～GH便り～冬支度』

いつまでも暑かったのが嘘のように急に寒くなり、衣服の調節も難しくなってきました。利用者さんによっては、長袖を出すとなったらセーターや布団や毛布等、一気に真冬の物に総入れ替えをしたい方もおられます。すると、汗をかきながら冬物を着ていたり、長袖を着て「暑い」とクーラーを点けられることもあります。

利用者さんにとって「〇月〇日から長袖（半袖）」と完全な切り替えの方がわかりやすいのですが、日によって気温の変化がある季節の変わり目はそうもいきません。スタッフは、薄手の物を出した後、本格的に寒くなる頃に厚手の物を出すというように説明し、調整しています。すると、利用者さんは「12月1日に出します。（出して下さい）」とやり取りが行われます。

暑がりや寒がり、人によって体感温度の差はあるので、その方の体質や年齢を考慮しながらも、気候に応じて衣類や寝具、室温の調節が必要です。

皆さんが、快適で健康に冬を迎えられるようにしていきたいと思えます。

世話人 藤本 優香



開園祭特別ページ



12月スケジュール

01(日) かくたつ研修
 03(火) かくたつ研修(2日目)
 09(月) 芸術クラブ
 14(土) 家族連絡会・もちつき
 15(日) 地域交流バレーボール大会
 17(火) 誕生会
 18(水) 1班レクリエーション
 19(木) 健康診断

20(金) ゴールドクラブ
 21(土) 陣内食堂
 23(月) クリスマス会
 25(水) 囑託医来診
 毎週月曜日 訪問理容サービス
 毎週火曜日 BeTREE役場販売
 BeTREE
 <営業時間>9:30~17:30



betree314

アンパ

『Nさんのスマートウォッチ』

生活支援員 黒澤加代子

アンパの主な活動はパンや菓子製造で、利用者の方達は日々仕事を頑張って毎月10日にお給料を貰われています。Nさんも給料日を楽しみにされていて、「なんば買おうかな!」と嬉しそうに話されます。ただ、いざ本の購入や好きな歌のCDの話を始めると、『〇〇してもらわなん』と云うのが口癖で、人にしてもらうことが当たり前になっていました。その為、Nさんが欲しい物を『自分が頑張ったから買うことができた。』と思えるようにするにはどうしたら良いかをグループホームのスタッフと話し合い、出勤簿に毎日100円シールを貼ってもらうことにしました。Nさんの欲しい物はスマートウォッチで八千円です。80日頑張らなければなりません。最初はすぐに買うことができないので不安そうでしたが、日を追うことに

「今日も頑張ったから100円貼っていいよね。いくら貯まったかな。」と嬉しそうに話されるようになります。11月19日、五千円貯まりました!! 残り三千円、Nさんの腕に光るスマートウォッチが楽しみです。

沢山のご厚意

ありがとうございます

ございます

【物品】

中尾美和様 米田孝一様
 米村秋江様 魚谷秀文様
 田中満子様 中村秀隆様
 赤星央子様 小牧博則様
 森川琇介様 櫻木勇夫様
 清田栄一様 渡邊正司様
 松村俊介様 牛島智子様
 東坂富士代様 井手上昌子様
 金森保様

【寄付】

三気の会家族会 (開園祭)
 三気の会家族会 (もちつき)
 松田 健様

【後援会ありがとうございます】

中田康則様 新田貴之様
 金森保様

【Vo】

前淵隆子様 プラッシング

編集後記

12月のイメーシカラーは、雪の白、クリスマスの緑や赤とのことです。昔はもう側だったプレゼント、今はサンタとなり渡す側となった私です。渡す側になると、ことも何が好きなのか、何をあげると喜んでもらえるのか?悩みは尽きないです。しかし、選ぶのが楽しかったりしますよね。私の両親もこんなことを考えていたのかなと思ってしまう。いい子にはサンタさんがプレゼントを持ってやってくると思えますが大人も有効ですよ?

枕もとを期待して眠りに着こうと思えます。 中村 奈実

